

上海レポート

令和3年9月号
Vol. 13



公益財団法人 大阪産業局 上海代表処 (大阪府上海事務所)

中国上海市延安西路 2201 上海国際貿易中心 408室 200336 Email osaka@ibo-sh.com.cn
TEL 86-21-6270-1901 FAX 86-21-6270-1351 http://osaka-sh.com.cn

20210906 号	話題の AI 食堂	副所長 前田千晶
20210913 号	「外国人」って誰のこと？中国と日本の外国観	所長助理 徐潔
20210920 号	中秋節と月餅	所長 南浦秀史
20210927 号	山東省の展示会に「大阪ブース」を出展しました	副所長 大山知宏

話題の AI 食堂

中国初の AI 食堂に朝ごはんを食べに行ってきました。この食堂は、地元政府と民間企業が共同で運営している公共の食堂で、AI 搭載のロボットが全ての料理を作っています。

営業は朝 7 時から夜の 6 時までで、100 種類以上のおかずをロボットが作ります。価格帯も手頃で、一番高くても単品 8 元(約 140 円)で、今回私が食べたラーメンは 1 杯 6.6 元(約 110 円)と財布に優しい値段でした。食堂は高齢者の多い地域にあることもあり、AI が栄養や塩分の摂取量を自動でコントロールし、高齢者の健康に考慮した料理を提供してくれます。長寧区の高齢者は、20 元(約 340 円)以上食べると 3 元(約 50 円)引いてくれて、20 元に到達しなくても毎日 1 元(約 17 円)の割引があるそうで、たくさん的高齢者が朝食を食べに来ていました。

料理の味は、あっさりした健康的な中華料理でした。お椀を所定の場所に置くと、ロボットアームがラーメンを作ってくれました。きちんと湯切りもしてくれました。ただ朝の時間帯はその他のおかずは人間が作っていて、おかずを調理するロボットは見る事ができませんでした。その後の支払い計算は AI の画像認証で行い、支払いは QR コード決済でした。今回 AI 食堂を体験して感じたことは、まだまだ全ての行程を自動化することは難しく、AI のミスを訂正するためにも人間が現場に立っている必要がありました。

今後はコロナウイルスの感染対策、人手不足を解消する目的もあり、ますます自動化が進みそうですが、より効率化するためにどの部分に自動化技術を使うのか見物です。



「外国人」って誰のこと？ 中国と日本の外国観

大都市・上海の慌ただしい朝の通勤途中、街路でよく見かける光景がある。小さな饅頭屋に若い社員が列を作っているのだ。饅頭(マントウ：中華まん)は気軽な上海朝食で、日本の「コンビニのおにぎり」と同じような存在である。1個3元(約50円)で、2個でお腹が膨れるので、パフォーマンスがすこぶる良い。

さて、沢山の種類の中でも、羅卜糸饅頭(ローボスマンドウ)は人気のある商品だ。羅卜(ローボ)は大根、つまり大根を細切りにしたピリ辛味の饅頭なのだ。中国語を学びたての日本人はある奇妙な共通性に気が付くかもしれない。中国では「人参」の事を「胡羅卜(フーローボ)」と言うが、これは大根の「羅卜(ローボ)」と何か関係があるのだろうか、と。

そう、胡羅卜は「胡から来た大根」という意味で、「胡」というのは「外国」の事。同じ法則では「胡瓜」「胡椒」「胡弓」なども同様で、「外国から来た」というニュアンスで言葉が作られている。そして、古代中国人(中原人)にとっての「胡人」は北方・西方(モンゴル、新疆辺り)の異民族(遊牧民)を意味していた。

いつの時代も、中国は「外国」と接している。漫画『キングダム』などにも登場する「西戎」も、大陸中央に属していた中原人(夏・周など)からすると「外国人」である。他にも、当時の中国人は「東夷」「北狄」「南蛮」を「外国人」とみなしていた。この東西南北の外国(四夷)は、自分たちの外側の世界に生きる世界の異邦人であり、基本的には自分たちとは相容れぬ存在であった。

そして今、この21世紀世界では、中国語の「外国人(ワイゴーレン)」は主に「欧米系の人種」を意味する表現として用いられている。中国人からすると、日本人も外国人であるはずだが、日本人にはそのまま「日本人(リーベンレン)」を使う。日本語としても、「外国人」は多くの場合は欧米人種を意図する事が多いように感じる。

言葉には文化と価値観が宿る。中国人も日本人も、お互いを「外国人」よりも近い存在だと無意識に認識しているのだろう。「中国と日本は相容れない存在である」と語る人もいるのも事実だが、心の距離は協力・共想の原動力だ。力を分かち合って共に生きる「朋友(親友)」が、いつでも傍にいる。

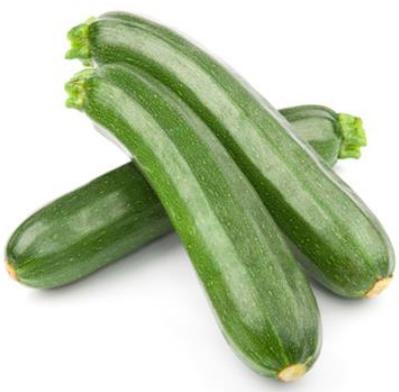
中国語「胡羅卜」= 日本語「人参」



中国語「羅卜」= 日本語「大根」



中国語「胡瓜」= 日本語「キュウリ」



中国語「胡弓」= 日本語「二胡」



中秋節と月餅

中国で中秋節は国が定める休日、今年(2021年)は9月19日～21日になります。日本でも「中秋の名月」などといいますが、新月の日を「月の最初の日」として、次の新月までを1ヵ月とカウントする旧暦では、毎月15日がほぼ満月になります。また、旧暦の7月・8月・9月が秋とされており、その秋の真ん中にあたる8月の十五夜の日を「中秋」と呼び、この日の満月は一年で最も美しいとされています。

中国ではこの中秋節に月に供え物をして一家団欒を楽しむ風習があります。このときに欠かせないのが「月餅」です。中国に赴任するまでは、とても甘くて固い丸い饅頭のようなものだけが「月餅」だと思っていました。しかし、そこはさすが本場です。各地の食習慣と融合して、「広式」(広東風)・「京式」(北京風)・蘇式(蘇州風)・潮式(広東省東部地域風)など地域によっていろいろな種類の月餅があるそうです。

ここ上海では、「鮮肉月餅」といって、サクサクのパイ生地にジューシーな肉汁たっぷりのひき肉餡が入っているものが有名です。ちょっと小腹がすいたときにつまむとやめられないおいしさです。また、香港やシンガポールなどでは「月餅」のことを「Moon Cake」と言っており、スターバックスなどでも販売されていて、エスプレッソ味、ラズベリー味、マカデミアホワイトチョコレート味など、どれも絶品だそうです。

大手リサーチ会社によると、中国の月餅売上高は2015年の131億8000万元(約2240億6000万円)から2020年には205億2000万元(約3488億4000万円)に増加、近年は伝統行事への国民の関心の高まりや、新型コロナウイルス感染症がおおむね抑制されていることから、親戚や友人が集まって親睦を深める中秋節本来のあり方が広がり、月餅の需要も回復すると分析しており、今年の月餅市場は218億1000万元(約3707億7000万円)に達すると推定しています。



山東省の展示会に「大阪ブース」を出展しました

9月8日～11日、山東省商務庁、済南市人民政府の主催により省都の済南市で開催された、生活雑貨や食品等を取り扱う展示会「第一回 日本(山東)輸入品フェア」に、「大阪ブース」を出展しました。

この展示会、本来は8月の開催予定となっていたのですが、7月下旬に江蘇省の南京空港で発生した新型コロナの国内感染の影響を受けて延期となり、今回の日程での開催となりました。

無事に開催となったのは良かったのですが、展示会場の来場者への健康コーやマスクの常時装着はもちろん、出展者全員には48時間以内のPCR検査の陰性証明提出が要求されるなど、厳格な防疫体制での展示会開催となりました。

濟南市では、海外の一つの国を対象とした展示会の開催は今回が初めてということもあり、日程変更等で展示会の宣伝が十分に行われなかったにも関わらず、初日から多くの来場者が会場を訪れ、熱心にブースで品定めをしていた姿がとても印象的でした。

出展企業からは、「予想よりたくさんの来場者があり、商品の売れ行きも好調。この地域に大きなポテンシャルがあることが確認できた」「B to B の商談が思ったより少なかったので、そこを改善してもらえれば、来年も参加を前向きに検討したい」といった声が聞かれました。

当事務所も普段は上海での展示会がメインとなっていますが、地方都市も、攻め方によってはまだまだチャンスがあることを、今回の出展で確認することが出来ました。

10月から11月にかけて、当事務所が出展する展示会の開催が続きます。新たな国内感染が発生して、これ以上悪い影響が出ないように祈るばかりです・・

